

きく組の流行！鬼ごっこ ～何鬼にする??～

作成日：R7年1月28日
対象児：4歳児 きく組
作成者：進藤葵月

ねらい：鬼ごっこを通して友達と関わりながら体を動かすことを楽しむ。



振り返り

作品展に向けての活動が続き、思いっきり外で体を動かせる遊びができなかったので、給食前にみんなで鬼ごっこをしました。まず、何鬼がしたいかの話し合いをしていく中で「増え鬼がしたい!」「氷鬼がいい!」「鬼ごっこがやりたい!」とそれぞれのやりたい遊びがバラバラでした。すると、一人の子どもが「じゃあ二つしようよ」と意見を出す姿があり、「鬼ごっこ」と「増え鬼」をすることになりました。鬼をしたい子どもが多くいたため、各班で話し合い、一人鬼を決める事になりました。誰が鬼をするのかを話し合っている様子を見ると鬼が決まっていく班や「えー僕も鬼したかった。」などと悔しい気持ちの子どもいましたが、「じゃあタッチされないように逃げる!」と気持ちの切り替えをする姿も見られました。別の班を見てみると鬼をしたくない様子でした。保育者は話に入らず見守っていると、一人の男児が「じゃあ僕が鬼をするよ」と動き、保育者がさりげなく「鬼をするの大丈夫?」と声を掛けると「うん、いけるよ」と笑顔で答え、男児のやる気がとても伝わってきたので見守ることにしました。

別日では「ハンターごっこ」をしました。タッチをされた子どもは1か所に集まり、逃げていた子どもの応援をしていました。残り一人が一生懸命逃げていく姿に感化されて「〇〇ちゃんががんばれー!」と子ども達みんなで応援する姿が見られました。走っていると自然と身体が温かくなり、部屋に戻ると「先生暑い!」「エアコンいらぬね」と上着を脱いで身体の変化にも気づくことができました。話し合いを大切にして、上手いかわなくても気持ちを切り替えられることを大事に保育をしていきたいです。

(健康な心と体、自立心、道徳性・規範意識の芽生え、思考力の芽生え、言葉による伝え合い)